

第 42 回日本原子力学会バックエンド部会全体会議議事録

日時:2015 年 3 月 20 日(金)12:00~13:00

場所:茨城大学日立キャンパス L 会場(E1 棟 43 教室)

参加人数:33 名

議事内容

1.塚本部長挨拶

2.平成 26 年度バックエンド部会賞

平成 26 年度部会賞受賞者は運営小委員会での選考を経て以下の方々に決定したことを報告するとともに、表彰状の授与を行った。

第 26 年度バックエンド部会賞 受賞者一覧

功績賞

該当者なし

業績賞

該当者なし

奨励賞

該当者なし

優秀講演賞

桐島 陽 殿 (東北大学)

表彰理由:

2014 年春の年会の口頭発表 H14「福島原発事故で発生した廃棄物の合理的な処理・処分システム構築に向けた基盤研究;(11)燃料デブリ中のアクチノイドの海水系における挙動」について、「優秀講演賞」の評価基準に基づく採点の評価結果による。

中田 弘太郎 殿 (電力中央研究所)

表彰理由:

2014 年秋の大会の口頭発表 F50「塩化物イオン同位体を利用した地下水流動・核種移行安定性に関する研究」について、「優秀講演賞」の評価基準に基づく採点の評価結果による。

笹川 剛 殿 (東北大学)

表彰理由:

第 30 回「バックエンド」夏期セミナー(2014 年 8 月)ポスターセッションの発表 po03「処分場周辺におけるケイ酸析出速度の pH 依存性」についての評価結果による。

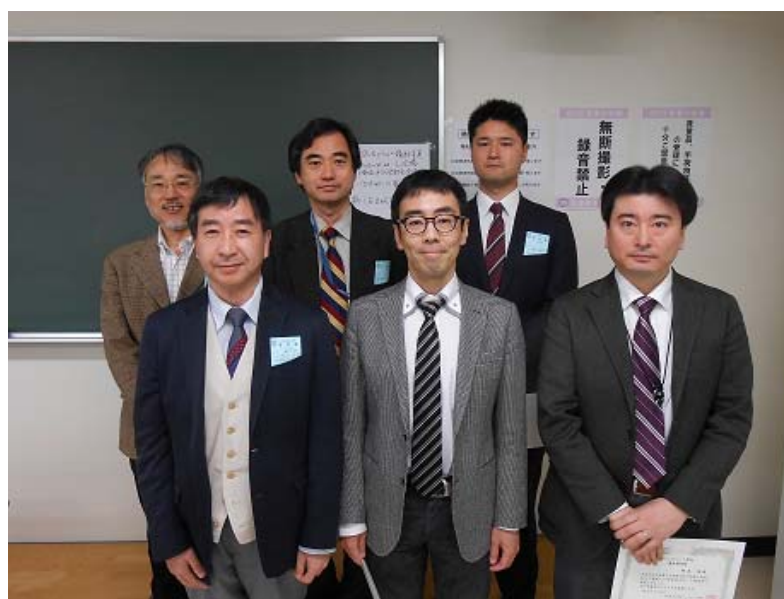
(夏期セミナーにて表彰済み)

論文賞

前田敏克 殿、渡辺幸一 殿、大森弘幸 殿、坂巻景子 殿(日本原子力研究開発機構)、
稲垣八穂広 殿、出光一哉 殿(九州大学)

表彰理由:

部会誌「原子力バックエンド研究」Vol.21-2(2015.1)に掲載の論文「カルシウムイオンや金属鉄がガラス固化体の溶解/変質挙動に及ぼす影響」について、「論文賞」の評価基準」に基づく採点の評価結果による。



受賞者記念撮影

3. 平成 26 年度活動報告

3.1 企画報告

3.1.1 企画 A

①大会・年会における企画セッション関係

・2015 年秋の大会

バックエンド部会企画セッションは水化学部会と共催で、「福島第一原子力発電所汚染滞留水処理の現状と今後の課題」として開催したことを報告した。プログラムの概要は以下の通り。

・3月20日(金)13:00-14:30 L会場

- | | |
|---|------------------|
| | 座長(東芝)高木純一 |
| (1) 福島第一原子力発電所の汚染水対策の現状と今後 | (東京電力)山下理道 |
| (2) 汚染滞留水処理技術とその成果 1)セシウム除去装置, 多核種除去装置 | (東芝)池田昭 |
| (3) 汚染滞留水処理技術とその成果 2)塩分除去装置, サブドレン水他浄化設備(日立 GE) | 川寄透 |
| (4) 汚染水処理二次廃棄物の現状と処理処分に向けた取り組み | (IRID, JAEA)目黒義弘 |

・2015 年秋の大会

年秋の大会(会期:2015 年 9 月 9 日(水)～11 日(金)場所:静岡大学 静岡キャンパス)における企画セッションの企画案を 4 月中旬まで募集中であることをアナウンスした。

②プログラム編成

2015 年春の年会のプログラム編成について、以下の編成委員のご尽力を得て行ったことを報告した。

コード	専門分野	WG リーダー	WG メンバー
405-1	放射性廃棄物処理	榑原哲朗(JAEA)	稲垣八穂広(九州大学) 斉藤拓巳(JAEA) 川寄透(日立GE)
405-2	放射性廃棄物処分と環境	藤井直樹 (原環センター)	稲垣学(NUMO) 稲垣八穂広(九州大学) 斉藤拓巳(JAEA) 三枝博光(JAEA) 川寄透(日立GE)
405-3	原子力施設の廃止措置技術	北村高一(JAEA)	田中宏和(三菱マテリアル)

③国際会議関係, その他

・インド原子力学会とのバックエンド研究交流

- インド原子力学会との協力協定調印終了
- 部会としての研究交流の計画を検討(学会からの依頼)
 - ・情報交換や講演等, 具体的な研究交流の企画を検討

・学会誌アトモスへの“バックエンド連載講座”の執筆

- 2014 年 9 月号から全 8 回の連載(日本原子力学会誌 Vol.56, No.9～ Vol.57, No.5)
- 放射性廃棄物概論－施設の運転及び廃止措置により発生する放射性廃棄物の対策－
 - (1) 放射性廃棄物対策の概要
 - (2) 放射性廃棄物の管理
 - (3) 原子力施設の廃止措置とクリアランス
 - (4) 放射性廃棄物の処理
 - (5) 放射性廃棄物の処分
 - (6) わが国の地質環境
 - (7) 地層処分システムの安全評価
 - (8) 将来展望

3.1.2 企画 B

第 30 回バックエンド夏期セミナーの開催実績について報告し、第 31 回夏期セミナー予定についてアナウンスした。

・第 30 回バックエンド夏期セミナー

- 日時:2013 年 8 月 6 日(水)～8 月 7 日(木)

場所:福島県郡山市 ビッグパレットふくしま中会議室 B

参加人数:83名

内容:

- ・環境修復に向けた取組み
- ・東京電力福島第一原子力発電所廃止措置に伴う放射性廃棄物処理・処分について
- ・使用済燃料の直接処分の研究開発について
- ・実施主体による取組み
- ・パネルディスカッション「地層処分技術の社会との共有について」

・第31回バックエンド夏期セミナー予定

➤ 日時:2015年8月5日(水)～8月6日(木)

場所:北海道旭川市 道北経済センタービル 大ホール予定

内容:放射性廃棄物処分(廃炉、1F 廃棄物等)に関するテーマなど。今後プログラムの詳細検討予定。また、幌延深地層研究センターの見学会を予定。

3.1.3 企画C

・EAFORM (East Asia Forum on RW) 小委員会

- 第1回小委員会 (3/6)
- 第5回 EAFORM カンファレンス@台湾 (アブストラクト募集)
- 台湾電力公司テクニカルワークショップへの関わり

・PSWG (Position Statements WG)

- 第1回 9/25、第2回 11/25、第3回 3/12
- 既作成の PS の見直し ※BE 部会としてはクリアランス及び HLW 地層処分

・日韓原子力学生・若手研究者交流事業運営小委員会

- 第1回小委員会 3/22 予定

3.2 広報報告

部会 HP 小委員会活動, H26 年度週末基礎講座の開催実績について報告した。

① H26 年度 部会 HP 小委員会活動について

(1) 部会ホームページの管理・運用 (<http://www.nuce-aesj.org/>)

- ・お知らせ・会議案内 の掲載
- ・部会誌「原子力バックエンド研究」記事・論文等の公開
- ・夏期セミナー・週末基礎講座でのプレゼンテーション資料の掲載
- ・部会表彰受賞者リストの公開, 規約更新 等

(2) バックエンド部会情報メールサービス(メーリングリストによる情報連絡)

配信実績 : H26 年度 30 件(4/1～3/20), 配信先 : 481 名(3/20 現在)

メールの配信開始・停止, アドレスの変更は部会員の皆さまからの申告によって行っています(配信エラーが続くと自動的に配信停止となります)。

アドレスの変更があった方, メール配信を希望される方は, 広報担当までお知らせください。

e-mail : info@nuce-aesj.org (部会ホームページをご覧ください)

(3)ホームページ小委員会メンバーの紹介

② H26 年度週末基礎講座報告

平成 26 年度の週末基礎講座の開催実績について報告した。

日程:10 月 18 日(土) 13:30~18:00、10 月 19 日(日) 09:00~16:00

場所:電力中央研究所 狛江地区 第 3 棟 31 会議室(東京都)

参加人数:24 名(受講者 15 名(内 学生 7 名), 講師 6 名, 事務局等 3 名)

講座名	講師
核燃料サイクルとバックエンドの基礎	新堀 雄一 (東北大学)
低レベル放射性廃棄物の余裕深度処分に関する検討状況	田村 直之 (日本原燃)
原子力施設の廃止措置における現状と課題	近江 正 (日本原子力発電)
地層処分事業の考え方と進め方	吉村 公孝 (原環機構)
地層処分と地質環境の長期安定性	浅森 浩一 (原子力機構)
地層処分の性能評価研究	江橋 健 (原子力機構)
グループディスカッション「バックエンド対策を進めるために必要なものは何か」	

3.3 出版報告

部会誌「原子力バックエンド研究」, J-STAGE におけるオンライン公開, 部会誌への投稿原稿の形式指定、部会員の皆様へのごお願いについて報告した。

①部会誌「原子力バックエンド研究」の発行

- ・Vol.21 No.1(2014 年 6 月 Web 公開)
- ・Vol.21 No.2(2014 年 12 月 Web 公開)
- ・CD-ROM 発行:No.1,2 合併号・2015 年 3 月, 発行数:730 部

②J-STAGE におけるオンライン公開

- ・公開中:Vol.1~Vol.22:186 件 (研究論文, 技術報告, 総論等)
- ・今年度、過去の論文を公開(103 件)
- ・今後も新規論文およびアーカイブ登録作業を鋭意継続し充実を図ります

③投稿・査読ご協力のごお願い

- ・部会員のための部会誌継続のために引続き積極的な投稿/寄稿, 査読への御協力をお願い致します!

3.4 庶務報告

海外発表助成制度、及び研究会支援制度の状況について報告した。

①海外発表助成制度

平成 26 年度実績

上期分(2 月 10 日締切) 応募なし

下期分(8 月 10 日締切) 応募なし

②研究会支援制度

平成 26 年度実績

平成 26 年度は応募なし

3.5 会計報告

平成 26 年度会計報告(2014 年度 2 月末までの実績)

< 部会収入 >

2014 年度本部予算:

・配分金:41.7 万円

2013 年度部門予算:

・参加費:160.4 万円(昨年度 200 万円n)

・掲載費:15.8 万円(昨年度 20 万円)

< 支出 >

・夏期セミナー支出:118 万円(昨年度 147 万円)

・J-Stage 過去分(103 件)登録:27.8 万円

・海外発表助成:支出なし

⇒収支は黒字の見込み

平成 27 年度予算

2015 年度 本部予算:

< 収入 >

・配分金 39.6 万円

・掲載費:10 万円

< 支出 >

・実績を踏まえて設定

・「海外発表助成」(270,000 円)を予算計上、その他不足分を部門予算から 40 万円補填(振替)

・本部予算は収支尻が「マイナス」、部門予算の収支尻で補填し繰越金からの補填はしない。

2015 年度 部門予算:

< 収入 >

・収入(参加費+その他)を 2014 年度の実績に合わせて 160 万円とした(前年度 30 万円減額)。

< 支出 >

・支出は科目毎に 2014 年度の実績を反映してそれぞれ減額。

・部門予算の収支尻で 40 万円の余剰、本部予算の収支尻-40 万円を補填する。

3.6 選挙管理委員会報告

平成 27 年度 運営委員改選選挙結果を以下のように報告した。

○バックエンド部会員総数:655 名

○投票数:348 名(53.1%)

○投票結果(敬称略)

		信任	不信任
部会長	新堀 雄一(東北大学)	344	4
副部会長	亀井 玄人(原子力機構)	337	11

運営委員	石原 義尚(三菱重工)	341	7
	大石 英希(日本原燃)	338	10
	川久保政洋(原環センター)	341	7
	北村 暁(原子力機構)	337	11
	坂井 章浩(原子力機構)	342	6
	関口 高志(戸田建設)	338	10
	丹生屋純夫(大林組)	337	11

以上の全員が信任された。

以上